

## 令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会

- 1 日 時 令和2年8月25日(火) 19:00~20:30
- 2 場 所 川崎市総合教育センター(高津区溝口6-9-3)
- 3 対象地域 久地二丁目、溝口六丁目
- 4 出席者  
建設緑政局長 磯田 博和  
建設緑政局道路河川整備部長 福田 賢一  
高津区役所道路公園センター所長 田之倉 誠  
建設緑政局総務部企画課長 小沼 匡弘  
建設緑政局道路河川整備部河川課長 安部 正和  
高津区役所道路公園センター整備課長 関 幸夫  
高津区役所危機管理担当課長 藤平 高志

### 5 説明会議事

#### ① 建設緑政局長あいさつ

こんばんは。建設緑政局長の磯田でございます。

本日はお忙しいところ、この暑さの続く中、またコロナ禍のもと、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

昨年の令和元年東日本台風を受けまして、川崎市では検証委員会を設け、今後の同様な事態が発生した場合におきましても、被害の最小化ができるように検証・検討を進めてまいりまして、本年4月に結果をとりまとめたところでございます。

本来であれば、もっと早い時期に御説明に伺わなければならなかったところでございますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な会議・会合などが延期や中止される中、日程を調整させていただき、ようやく本日開催の運びとなりました。開催が遅くなりまして、大変申し訳ございませんでした。

この間、検証結果を踏まえた様々な対策を進めてまいりましたので、本日は検証結果に加え、対策の進捗状況についても御説明をさせていただき、皆様から御意見、御質問を頂戴したいと考えております。

新型コロナウイルスにつきましては、まだまだ油断できない状況が続いておりまして、本日の開催にあたりまして、人数や時間を限らせていただく中での開催となりますが、できる限りわかりやすく丁寧な説明を心掛けたいと考えております。頂いた御意見、御質問に対しても、しっかり対応させていただきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお

願いたします。

### (司会)

続きまして、説明会の進行等に関して、3点ほど御説明させていただきたいと思います。

はじめに、この説明会の記録を作成するため、録音をさせていただきますので、御了承ください。

次に、本説明会の開催に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、座席の距離をとる等の対策を実施しておりますが、感染リスクを極力避ける必要があることから、説明会全体の時間を1時間半程度とさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

次に、お手元にお配りしている本説明会に関する「御質問・御意見記入用紙」でございますが、回答を希望される場合には、御住所とお名前を御記入の上、お帰りの際、受付にある回収ボックスにお入れください。

それでは、配布させていただきました資料に基づいて、建設緑政局河川課長の安部及び、高津区役所道路公園センター整備課長の関から御説明をさせていただきます。

## ② 資料説明

### 河川課長：

建設緑政局道路河川整備部河川課長の安部でございます。

これより、【令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する対策など】について御説明させていただきます。

2ページを御覧ください。

初めに、市内で行われている【1.川崎市の治水事業の沿革】について、御説明いたします。市内を流れる一級河川は、流域の都市化に伴う雨水流出量の増大で治水安全度が低下し、早急な整備が必要になり、昭和46年から国、県の補助制度の適用を受け、時間雨量50ミリメートルの降雨に対応できる河川改修を進めております。

また、総合的な治水・浸水対策として、五反田川放水路などの河川整備のほか、雨水流出抑制施設の設置指導等の取組も進めているところでございます。

次に、下記の図を御覧ください。浸水被害が発生した3地区の河川及び施設の事業経過等をお示ししております。

【(1)河港水門】につきましては、大正時代に構築された大規模な運河計画に伴い、当時の内務省土木技師により設計され、昭和3年に完成したものでございます。後に、社会情勢の変化などにより運河計画は廃止されました。現在は、船溜まりが残っており、数年前まで、砂利の陸揚げ施設として砂利運搬船が出入りしておりました。

また、平成10年度には、かつての大運河計画の存在を物語る希少な歴史的遺産として、国の登録文化財に登録されております。

次に、【(2)平瀬川における取組】についてでございます。従前の平瀬川は上之橋付近で東に折れ、溝口を経て多摩川に流入し、たびたび氾濫を起こしていたため、昭和 15 年から昭和 20 年にかけて、県営多摩川右岸農業水利改良事業の一環として、多摩川へ全量カットするトンネルが築造されました。

また、昭和 45 年度には、更なる流下能力の向上を図るため、トンネルをもう 1 つ整備しております。この様な整備により、平瀬川は時間雨量 50 ミリメートルでの河道整備が完了しているところでございます。

次に、【(3)三沢川における取組】についてですが、河川管理者は神奈川県となっております、従前の流路は現在の旧三沢川でありましたが、洪水時による浸水被害が度々発生したため、県営三沢川沿岸排水改良事業により、昭和 22 年に現在の位置に完成しております。

また、多摩ニュータウンの開発に伴い稲城地区の排水と三沢川の流量調整機能を兼ねた分水路の整備が位置付けられ、昭和 51 年に完成しております。この様な整備を経て、神奈川県管理区間につきましては、時間雨量 50 ミリメートルでの河道整備が完了しているところでございます。

3 ページをご覧ください。

【2. 降雨水位等の基礎情報】でございます。

【(1)令和元年東日本台風の概要と多摩川流域の状況】についてでございますが、令和元年 10 月 11 日から令和元年東日本台風の接近に伴い、多摩川流域全体の広範囲に強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となりました。図中、赤枠で記載しております、多摩川流域の檜原雨量観測所、御岳雨量観測所、高尾雨量観測所、多摩雨量観測所において、観測を開始してから過去最高の雨量を観測しております。

次に、【(2)多摩川の水位状況等】についてでございます。多摩川では、田園調布（上）水位観測所と石原水位観測所において計画高水位を超過しており、グラフにお示ししているように、田園調布（上）では 10 月 12 日 22 時 30 分に既往最高の水位 10.81 メートルを記録しております。

次に、【(3)被害の概要】についてでございます。川崎市におきましては、令和元年東日本台風により、川崎区の港町周辺、高津区の平瀬川合流部周辺、多摩区の J R 南武線三沢川橋梁周辺の 3 地域において浸水被害が発生いたしました。

次に、【(4)浸水地域の状況】についてでございます。被害が発生した 3 地域近傍における雨量観測所の最高時間雨量は、過去 10 年間の既往最高時間雨量を下回る雨量でありました。市内の観測におきましては、高津区の平瀬橋水位観測所（平瀬川）で氾濫危険水位の超過を確認した他、宮前区の嶋田人道橋水位観測所（平瀬川）と宮前区のあゆみ橋水位観測所（平瀬川支川）において、避難判断水位を超過しております。

次に、【(5)浸水地域の河川、水路、水門の諸元】につきましては、記載のとおりでございますので、後ほど御覧ください。

4 ページを御覧ください。

【(1)浸水状況の検証結果】について御説明いたします。

【ア. 浸水経路】につきましては、「①管理用通路水抜き穴からの浸水」「②東久地橋桁下からの浸水」「③平瀬川の堤防からの越水」の3経路を確認いたしました。

次に、【イ. 高さ測量結果や水位データによる検証】についてでございますが、平瀬川と多摩川の水位、平瀬川護岸部の測量結果から、10月12日15時頃に管理用通路水抜き穴から浸水が発生し、18時頃から翌13日0時過ぎまで、東久地橋桁下からの浸水と、平瀬川堤防からの越水が同時に発生していたと推測され、この状況は中段のグラフでお示ししております。

また、平瀬川の堤防上、最大約65センチメートルのところまで水位が上がったことも確認いたしました。

次に、【ウ. 地域ヒアリング・アンケート結果抜粋による検証】でございます。

浸水エリア地域の住民の皆様にご浸水当時の状況等について、ヒアリング・アンケート調査を実施させていただいたところ、104件もの回答をいただきました。その結果、浸水経路につきましては、「パラペットからの越水」「東久地橋桁下／合流部付近からの浸水」「管理用通路水抜き穴」「周辺道路／マンホール」との回答が多く、浸水を確認した時間帯につきましては、「22時から24時」との回答が多かったところであり、「ア」でお示した浸水経路と、「イ」の高さ測量結果や水位データによる検証と、ほぼ同じであることが確認できたものでございます。

5 ページを御覧ください。

【(2)短期・中期対策】について御説明いたします。

【ア. フラップゲートの設置】につきましては、市が管理する33箇所につきましては、3月に実施済みでございます。

また、民有地から接続されている22箇所につきましては、所有者及び構造等の調査を完了しており、各々の状況に応じた対策の実施を所有者に対し依頼したところでございます。

次に、【イ. 大型土のう等の設置】につきましては、東久地橋桁下からの浸水を防止するために大型土のうを設置するものでございますが、本市により大型土のうを設置することで河川管理者である国土交通省京浜河川事務所に対し協議・調整を進めておりましたが、当該箇所の対策は河川管理者である国が施工するとの報告があったことから、対策の実施につきましては国で行うこととなり、8月中に設置したところでございます。

次に、【ウ. パラペット護岸の改良】につきましては、堤防からの越水による被害を軽減するため、アクリル板等を設置するものでございます。アクリル板の設置につきましては、パラペットの改良等が必要となり時間がかかることから、完成までの間の暫定対策として、仮設板の設置を8月に行ったところでございます。

また、アクリル板の設置につきましては、設計水位の見直しなどを行った結果、構造的な変更が生じ、現在施工中である工事の延長が浸水影響範囲の半分程度となってしまったこ

とから、残りの区間の工事を追加で発注し、今年度中の完成に向けて取り組んでまいります。

次に、【エ. 水位計、カメラの新設・更新】につきましては、平瀬川と多摩川の合流点、二ヶ領本川と平瀬川の合流点にカメラ及び水位計の設置を 8 月末までに行い、得られた水位情報やカメラ画像を 9 月から一般に公開してまいります。

次に、【オ. 被害最小化の取組】につきましては、移動式ポンプを 2 機配備しております、地盤の低い地域の内水処理能力強化のための移動式ポンプを 7 月に 1 機増設し、また、土のうステーションにつきましても、6 月にかすみ堤内に設置したところでございます。

6 ページを御覧ください。

【(3) 中長期対策】について御説明いたします。

【ア. 平瀬川の現状】につきましては、平瀬川は神奈川県が管理する一級河川であり、時間雨量 50 ミリメートルの降雨に対応した河道の整備が完了しております。多摩川合流部の周辺につきましては、中段の写真にございますとおり、多摩川の計画堤防高と平瀬川の堤防高の差が約 3 メートルございます。こうしたことから、【イ. 中長期対策の方向性】にございますとおり、多摩川との合流部における平瀬川の堤防かさ上げ等の機能強化などについて、多摩川の管理者である国や、平瀬川の管理者である県と対策の検討・調整を行っているところでございます。

次に、【ウ. 現在の進捗状況】につきましては、東久地橋桁下の対策について、大型土のうの設置が完了しております。

また、平瀬川の堤防かさ上げ等の機能強化に関しましては、県と連携し、国と合流点処理について協議を行っているところでございます。

7 ページ、8 ページにつきましては、ソフト対策として、後ほど高津区役所から御説明いたします。

9 ページを御覧ください。

【(5) 対策とスケジュール】についてでございます。

これまで御説明した対策につきまして、対策時期、対策内容、対策実施者などをお示ししているものでございます。後ほど御覧ください。

説明は以上でございます。

#### 高津 DKC 整備課長：

道路公園センター関でございます。7 ページを御覧ください。

【(4) ソフト対策】について御説明いたします。

これからの治水対策はハード対策のみではなく、ソフト対策との両輪で進めていくというのが国の方針でございます。令和元年東日本台風の検証委員会の報告書によりましても、ソフト対策が重要視されておりまして、その短期対策方針として、地域ごとの避難勧告発令時に着目したタイムラインの策定が挙げられております。こうした状況も踏まえまして、7 ページ・8 ページにある資料を作成させていただきました。

まず、7 ページに示します、「平瀬川最下流部における避難行動におけるタイムライン（洪水）（案）」として、避難の目安となる平瀬川の水位、発信される避難情報に応じて住民の皆様がとるべき避難行動等を時系列で取りまとめたものでございまして、洪水時の避難の際に活用していただくことを目的に作成したものでございます。

初めに、資料の左側、住民の皆様が避難行動を起こすために必要な判断の目安となる平瀬川の水位と、それに伴い発信される避難勧告等の避難情報、水位に応じて住民の皆様が取るべき行動、平瀬川最下流部における指定緊急避難場所等をお示ししているものでございます。

左上段の囲み部分ですが、平瀬川につきましては、既設の水位計が設置されておりまして、避難勧告等の発令につながる氾濫危険水位等の判断基準水位が県によって設定されております。河川の断面図と上の表が連動しておりまして、下から上に行くに従い、危険度が増加するといったつくりとなっております。

表の中段赤字部分になりますが、平瀬川の水位が氾濫危険水位であります 4.6 メートルに達した場合や、避難氾濫水位である 4 メートルを越えた状態で気象情報等から多量の降雨が予想される場合には、図の②で示す間に、この地区に特化した避難勧告が発令されることとなっております。この間に避難を開始していただくための情報、具体的に申しますと「防災情報無線」「広報車両による避難情報」「ホームページの水位計や河川カメラ」「メールニュースかわさきからの避難情報」が発信されます。これらを元に住民の皆様が取るべき行動といたしまして、指定緊急避難場所等の安全な場所への立ち退き避難や屋内の安全な場所への避難を開始していただくというものです。ちなみに、避難所は下段の図面黄色で示す「西高津中学校」となっております。

次に、表の上段の紫色になります、平瀬川の水位がさらに上昇し計画高水位の 5.5 メートルを到達する恐れが高い場合や越水の恐れが高まった場合に、図の③で示す間に避難指示が発令されることとなっております。平瀬川の水位が 5.5 メートルに達すると浸水被害が発生する可能性が非常に高くなりますので、この水位に到達するまでには避難を完了させていただきたいと思っております。

具体的には、水位が③の間に住民の皆様は確実な避難を完了、もしくは、避難行動に余裕がない場合には屋内の安全な場所等に避難するなど、生命に関わる最低限の行動をするというものでございます。

資料の右側には、台風や大雨に備えて、ハザードマップにより災害リスクを事前に確認しておくことや、避難先や避難行動を事前に考えておくこと、また、情報の入手先の確認方法などをお示ししております。

8 ページを御覧ください。

こちらの資料は、7 ページの資料の解説となります。

初めに、【1. 平瀬川最下流部への避難情報の発信】につきましては、平瀬川の最下流部にお住まいの皆様、平瀬川の水位に着目した避難に関する情報発信と、それにより地域の皆

様にとっていただきたい行動を記載しております。

次に、【2. 平瀬川最下流部の水位計・カメラ】につきましては、水位計が設置されている平瀬橋観測所の位置や、得られた水位情報がホームページで公開されている状況等をお示ししているものでございます。

次に、【3. 発信する情報】につきましては、①の避難判断水位や、②の氾濫危険水位など、避難行動に係る情報を発信する水位や、避難に係る時間、情報の入手方法並びに住民が取るべき行動などを記載しております。

なお、それぞれの行動に必要な時間につきましては、令和元年東日本台風時における平瀬川の1時間あたりの最大水位上昇量により、算出しているものでございます。

### ③ 質疑応答

#### (司会)

それでは引き続きまして、質疑応答に入らせていただきます。できるだけ多くの方に御発言いただきたいと考えておりますので御協力をお願いいたします。

それでは、御質問等ある方は挙手をお願いいたします。

#### (質問者1)

対策に関わるか分からないが、平瀬川と多摩川の合流するところに古い礫間浄化施設があるが、処理能力ではなく飲み込める容量を教えてほしい。

#### (高津 DKC 整備課長)

礫間浄化施設は国の設備であり、能力に関する資料は御用意しておりません。平瀬川の水質が良くなったので、今は運用を行っておりません。

#### (質問者1)

運用されていないのは知っている。飲み込める量があるのかどうか。6ヘクタールで単純に水深1.5メートルであれば、9万トンほどの水が漏れていると思うが、その程度の水は飲み込めなかったのかと思ったので。

#### (高津 DKC 整備課長)

データがないので、国の京浜河川事務所に確認します。申し訳ありません。

#### (企画課長)

浄化施設については、きちんと国から調べさせて回答させていただきますが、わたくしが把握している情報ですと、その施設は貯留する施設ではなく、水質を浄化するための砂利など、浸透して汚れなどを取るものが埋設されていると聞いております。したがって、今

回の台風などの際に水を貯めるものではないという認識ですので、補足をさせていただきます。

**(質問者 1)**

避難指示・避難判断は、役人の方々はどういう災害を想定して避難しろと言っているのか。今回、私たちは越水をしてしまったので、はっきり言うと越水が脅威になっている。浸水するから避難しろと言われても、いまいちピンとこない。はっきり越水するから避難しろというのであれば、必要な物を持ち出して避難するが、水位が上がって避難しろと言われても、実際に越水するのか平瀬川のパラペットが決壊してしまうのか、どこまで想定しているのか。基準の水位になったから避難しろと言われてもピンとこない。

**(高津 DKC 整備課長)**

避難勧告の目安は河床から 4.6 メートルを基準にして避難勧告を発令します。ただ、雨の降り方によっては、4 メートルを超えたあたりで発令する可能性もあると先ほど御説明させていただきました。避難勧告については、水位の上がる間に避難開始するといった避難行動を起こしてほしいということです。さらに水位が上がり、平瀬川の護岸の堤防高さまでくるような勢いで降雨があった場合、5.5 メートルの計画高水位になるまでの間に、避難指示というものが区長から発令されるので、それまでに避難を完了させてほしいというところでお願いをしております。

**(質問者 1)**

基準がそれだというのは分かるのだが、実際に浸水するから避難しろというのであれば、パラペットをかさ上げしても、越水はしなくても浸水すれば同じことだと思うが。浸水すれば、我々には被害が出るわけですね。

**(高津 DKC 整備課長)**

はい。

**(質問者 2)**

今回の工事は避難するための工事なのか、それとも水没しないようにする工事なのか。今までの話を聞いていると、避難するための時間稼ぎでパラペットのかさ上げをしているようにしか聞こえない。これはどういうことなのか。

**(高津 DKC 整備課長)**

今行っている工事については、令和元年東日本台風の時に上がった水位を想定していて、同規模の洪水が来ても越水しないための工事を行っております。これがハード対策という



ことで行っております。先ほど申し上げたタイムラインというのはソフト対策でございます。治水対策の両輪で進めております。

**(質問者 2)**

アクリル板の工事をやれば、昨年のような台風が来ても、水はもう溢れないと言っているんだね。

**(高津 DKC 整備課長)**

はい。そのような構造で整備を進めてまいります。

**(質問者 2)**

大丈夫なんですね。

**(高津 DKC 整備課長)**

はい。

**(質問者 3)**

仮設工事でベニヤ板を付けている。護岸にベニヤ板が付けているが、いつまでか。ベニヤで水圧に耐えられるのか。それからこの前の水位の方が板より高いんだよね。90 センチメートルじゃ足りない。道路から2メートル以上きているんだから。

**(高津 DKC 整備課長)**

パラペットという現場に立ち上がったコンクリート構造物がありますが、その上に転落防止の柵が付いております。洪水の痕跡を調べた結果、コンクリートの天端から65センチメートルのところでした。

**(質問者 3)**

一番端の平瀬橋の下に住んでいるが、もっと高いんです。道路から2メートルのところまで浸水している。写真ありますよ、家に。あんなベニヤじゃ耐えられない。超えてくる。

**(高津 DKC 整備課長)**

今後アクリル板の製作に時間が掛かるため、応急対策です。

**(質問者 3)**

アクリル板っていったって、同じ高さじゃない。そんなもんで壁がもつのか。

**(高津 DKC 整備課長)**

今ある仮設板とほぼ同じ高さのところに透明の亚克力板を設置してまいります。

**(質問者 3)**

コンクリートでかさ上げしないのか。こんなの無駄使いじゃないの。ベニヤ板を貼って取り換えるんじゃない。

**(高津 DKC 整備課長)**

仮設板については、亚克力板が設置できるまでにお時間をいただく関係での暫定的な緊急対策として、今シーズンの台風に備えて小規模な越水の防止には効果があるということで、少しでも安全性を高めていきたいと考えております。

**(質問者 3)**

小規模じゃダメじゃないか。うちなんか何にもなくなったんだよ。簡単な子供騙しみたいな工事してどうするんだ。亚克力板で台風の洪水が防げるのか。

**(高津 DKC 整備課長)**

亚克力板が完成すると、令和元年東日本台風と同等規模の水圧には耐えられる構造となっております。

**(質問者 3)**

コンクリートの上から 90 センチメートルくらいしかないじゃない。1 メートルあるかなしなのに、越水しないのか。

**(高津 DKC 整備課長)**

場所によって高さが変わってきますが、例えば、平瀬橋のすぐ上流の内水氾濫対策でポンプを設置する箇所付近では、パラペット天端から高さ 80 センチメートルの亚克力板を設置することになり、昨年の台風のピーク水位は、その高さより若干低いところになっております。

**(質問者 3)**

うちの前のコンクリートは高さが低い。それと同じ高さで来たら、うちの方はいつまで経っても低いじゃない。80 センチの亚克力をやって、うちの方なら 1.5 メートルくらいじゃないと耐えられないよ。多摩川の水がどんどん入ってきちゃう。

**(高津 DKC 整備課長)**

右岸側の最下流のことを仰っていると思いますが、そこについては、パラペット自体が高くなり、場所によって違っております。

**(質問者 3)**

違うよ。うちの方は低いんだよ。上流のゴルフ場の方は水が来ていないんだよ。うちの方はコンクリートの高さが低い。水が来ちゃってるんだから。

**(河川課長)**

今回の対策の範囲としては、痕跡のあった 65 センチメートルではなく、多摩川の上流にある水位計で観測した実際の水位から平瀬川のピーク水位を換算し、実現象に近い数値を基に影響範囲を想定して、アクリル板の設置位置を決めております。川は上流から下流に水が流れているものでございまして、、、

**(質問者 3)**

越水したのは平瀬川が増えたからじゃない。多摩川が増水して逆流したからなんだよ。

**(河川課長)**

多摩川が増水して平瀬川に影響する範囲を計算して、今回対策する範囲を決めております。川は上流から下流に向かって勾配がついておりますので、最下流部の水位と勾配をもとに、アクリル板の高さを出して計画しております。

**(質問者 3)**

下流より上流の方がアクリル板の高さが低いのはおかしい。ベニヤ板は一律の高さで設置している。

**(河川課長)**

今回の対策は、既設コンクリートの上にアクリル板を立てますが、下流部に行けば行くほど高くなります。

**(質問者 3)**

ベニヤは、そうっていない。

**(河川課長)**

ベニヤ板については、緊急対策として一律に設置したものです。その先を見据えたアクリル板は、下流が高く上流に行くほど低くなります。

**(質問者 3)**

大型土のうは、なぜあんなに高く、東久地橋の下に積んであるのか。

**(河川課長)**

それは国土交通省が行っております。令和元年東日本台風で記録した水位の高さです。

**(質問者 3)**

それは意味がないと思う。そんなところに積んだら、多摩川側が低くなるので池になる。そういうの分かってやっているのかな。

**(河川課長)**

平常時は大型土のうの間の方が通行する部分は開けております。

**(質問者 3)**

大型土のうで塞いだ際には、低いところが池になる。土のうはもっと多摩川の方に積むのが当たり前じゃないか。あんなところに積んだって何の意味もない。

**(高津 DKC 整備課長)**

国土交通省が大型土のうを積みましたが、あそこで多摩川からの浸水を堰き止められるということです。東久地橋の下あたりが多摩川の河川区域で、そこには家屋等がありませんので、東久地橋桁下で堰き止める構造です。

**(質問者 3)**

東久地橋下右岸側の平瀬川のフェンスの先に土のうを積むのが当たり前。反対側の大型土のうの高さが違うので、フェンス側の大型土のうをもう少し高く積んだ方がよい。黒い土のうをもっと多摩川側に置くべきだ。

**(高津 DKC 整備課長)**

緑色の防水シートが掛かっている大型土のうが積み終えたもので、黒い土のうは有事の際に通路を閉めるために積むものです。

**(質問者 3)**

今は開いているから、越水してきてしまう。この前は越えてきたんだよ。池みたいになっちゃう。

**(河川課長)**

8月に設置したばかりで、まだ道路公園センターも閉塞に向けた訓練をしておりません。今後は、いただいた御意見を参考にさせていただき、土のうの置き方はいろいろ試行錯誤して、有事の際に行動したいと考えております。

**(質問者3)**

かすみ堤の犬走まで水が来た。こんな低いことをやっても何にもならない。家の中、2メートルも水が来ている。こんな土のうを積んでも何にもならない。

**(高津DKC整備課長)**

大型土のうの高さについては、令和元年東日本台風の最高水位を想定した高さで計画して、満足する高さまで積んでおります。

**(質問者3)**

アクリル板はもっと高くするべきだ。左側のフェンス側の土のうの高さが低い。

**(高津DKC整備課長)**

二段積みになっている左側の部分は、令和元年東日本台風のピーク水位を満足した高さということで国は設置しておりまして、本市が設置するアクリル板の高さもほぼ同じ高さです。国によりますと、三段積みになっている右側は、土のうを積んだ時の沈下などを想定して高めに積んでいるとのことでした。

**(質問者4)**

今回の対策は多摩川の水位が上がった時と、平瀬川の水位が上がった時の、どのタイミングの対策ですか。今回の件はいろんなものが複雑に絡まっている気がしますが、そちらが出している対策は、平瀬川だけを見ているような気がする。それだと、多摩川が氾濫して、さっきみたいな逆流した時の対策は何もされていないということですよ。

それともう一つ、左岸側の端の柵がない部分は何も対策しないということですか。そこはどうでもいいということですか。

**(高津DKC整備課長)**

水位については、多摩川と平瀬川の合流地点であるため、東日本台風の時の水位上昇といった事象をとらえて検討している高さです。

**(質問者 4)**

検討している高さということは、決まった高さではないということですね。

**(高津 DKC 整備課長)**

検討した結果の高さに基づいた対策を実施しております。

**(質問者 4)**

多摩川の水位が上がった時間、平瀬川の水位が上がった時間、タイミングを全部検証して計画しているのか。多少タイミングが違うと思いますが。というのは、午後 2 時から午後 4 時までにあつという間に水位が上がったのが平瀬川で、そのときから多摩川は逆流が始まっていた。そういう当時の水位が上がってきた時間を全部みて考えた対策なのか。

**(河川課長)**

対策内容につきましては、資料 4 ページにお示ししておりますが、、

**(質問者 4)**

対策内容は分かってますから。その考え方が、平瀬川と多摩川の両方を考えた対策ですかと聞いているんです。

**(河川課長)**

両方を考えた対策でございます。

**(質問者 4)**

でも、多摩川の管轄は国なんですよね。国とちゃんと話をした結果がここに載っているということでもいいんですか。

**(河川課長)**

そのとおりです。

**(質問者 4)**

水位とかいうのも全部そうなんですね。

**(河川課長)**

そうです。4 ページにお示ししているグラフがその部分でございます。

**(質問者 4)**

逆流への対策は何かしているんですか。

**(河川課長)**

東久地橋付近からの浸水防止ということで、大型土のうの設置を行っております。

**(質問者 4)**

それは逆流対策なのね。

**(河川課長)**

多摩川からの影響を受けないために行っている対策です。

**(質問者 4)**

それは逆流対策でないってことですか。難しくて分からないから、もっと簡単にちゃんとやってくれないかしら。

**(河川課長)**

逆流かどうかといった判断は非常に難しいと考えております。

**(質問者 4)**

分かっていないということですね。今できる最上の策っていうのがこれですってことですか。

**(河川課長)**

短期対策として今できることが、今回の対策内容となります。

**(質問者 4)**

なるほど、話としては分かりました。その次の質問の、左岸側のコンクリートが欠けているのはなぜですか。

**(高津 DKC 整備課長)**

写真でいう左側の、奥側のところに有事の際には土のうを積んで多摩川の水を止めるものです。

**(質問者 4)**

左側ってどこに。

**(高津 DKC 整備課長)**

右手に土のうが積んであるところです。そこのパラペットとの間に土のうを積んで多摩川からの浸水を食い止めますので、この隙間については問題ないです。

**(質問者 5)**

工事が完成した場合、台風 19 号程度の規模のものを何パーセント防げるのか。

**(高津 DKC 整備課長)**

台風 19 号のピーク水位を基準として対策を考えていますので、同等規模の洪水は防げると考えております。

**(質問者 6)**

子供騙しだ。こんなのやっても何の意味もない。やるならもっと徹底的にやるべきだ。もう 1 年も時間が掛かっている。次の台風はどうするんだ。身体、生命、財産を守るために、あなたたちは何をやっているのか。仕事だからやっているだけでしょ。私たち住民が毎日考えていることは、多摩川の水位、平瀬川の水位を当てにしているのではなくて、多摩川は上流から水を受けていて波打って流れてくる。それを平瀬川は多摩川の水位が上がった際に流れ込めない。それで水位が上がってくるんだ。ちゃんと考えているのか。コンパネでは何の意味もない。人を騙すようなものだ。あれでは水が入ってくる。水の力はすごいんだ。あなたたちは分かっているんですか。

平瀬川は昭和 16 年にできた。強制執行です。あなたたち知らないでしょ。その掘った土はかすみ堤にのっている。自分の田んぼは親の代に分断された。私は昭和 18 年に生まれた。親から聞かされていたことなんだ。市議会議員がいた。その名前は出せないが、久地は見捨てられた土地なんですよ。溝口を守るために、かすみ堤ができた。そういうことを知っていますか。久地 1、2、東町会があるが、久地ゴルフ場にあった。みなさん強制で移ったんだ。前は平瀬川の支流で水を取り入れて水をきれいにした。そこのあたりに昔は住まいがあったんだ。それで、暴れ多摩川で水が毎年そこに上がってくるから、今の東町会、久地ゴルフ場で毎年水が溢れた。土台の上で切って、現ゴルフ場のところに立っている。そこは見捨てられた土地なんだ。前回説明会があったとき、国に対応してもらいたいと言ったでしょう。もっと平瀬川側の地盤を上げないとだめでしょう。1 年間何をしていたんだ。こんな子供騙しなら意味ないでしょう。

**(企画課長)**

多摩川と平瀬川の合流部は 6 ページにお示ししたとおり、多摩川の平瀬川の合流点の堤防高さは 16.36 メートル、平瀬川は 13.23 メートルの堤防高となっております。そのため、



堤防の高さは約3メートル違っているという形になっております。今回の東日本台風では、多摩川が既往最高水位を超えて、さらには堤防を整備する際に基準の高さである計画高水位を超える中で、平瀬川の水位も上がったことで浸水ということになってしまいました。

**(質問者6)**

今の説明は平瀬川の上流からの流れが強かったからだね。今まで76年生きているが、あんなに水位が上がったのは初めてだ。家の周辺は上流だが、あと1メートルもなかった。上流で久地第2町会では今までで初めて。夜中の2時に東町会も水がいつぱんに流れていた。アクリル板、パラペットをやっても、多摩川の水が入ってきてしまう。意味がない。

**(企画課長)**

一般的な合流点処理としては、本川の堤防高さまで支川の堤防高さを高くする、水門を設置するなどの対策が基本になりますが、水門を設置してしまうと支川の流れを止めてしまいますので、機械で強制的に排水するなどの対策の検討が必要となります。

いずれにしても、本川と支川の合流点については大規模な改修が一般的な事例となりますので、現在、そういった事例を調査しながら、国と県と市で対策の検討、調整を進めているところです。

また、本日説明した対策について、皆様に御指摘、御心配いただいているところですが、台風シーズンまでの対策として、何とか浸水被害を最小化したいという思いで、大型土のうやアクリル板の工事などを行うことで、浸水被害の軽減に努めていきたいと考えております。ただ、近年は想定しない豪雨もありますので、提示させていただいたタイムラインにより、適切な避難をお願いしたいと考えております。

また、先ほど国が対応するべきとお話が出ましたが、多摩川における対策についても国と多摩川流域の自治体が策定した、「多摩川緊急治水プロジェクト」において、河道掘削などを計画しております。今後も国等との連携をしっかりと行い、浸水被害の最小化に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

**(質問者7)**

今までお話でしっかりとやってもらっているのは理解できるが、土のう・アクリル板では足りないのではないかと住民は心配している。水門の検討は長期になるだろうが、すぐにできなくても、国・県・市と積極的に前向きに検討を行ってもらえるのか。

**(企画課長)**

6ページの中長期対策でもお示ししたとおり、現段階においては具体的な整備の話ができる段階ではありませんが、平瀬川の堤防を本川並みにかさ上げするのか、水門や機械で排出する施設を造るのかなど、一般的な合流点処理の事例を調査しながら、国・県と引き続き連

携して、検討・調整をしていきたいと考えております。

**(質問者 8)**

時間雨量 50 ミリメートルという話が結構出ているが、時間雨量はどのくらいとは、気象庁から発表されることか。それと水位が高くなってきて避難勧告、指示までの時間が大事になる。計画水位になってから避難指示が出るまでの時間が分かればいいと思う。これは多摩川の水量とも関係するのだろうか。

**(高津 DKC 整備課長)**

8 ページの右側でございますが、矢印のところに時間が書かれております。本来は一概に示せない数字ですが、今回示させてもらったのは、東日本台風の 1 時間当たりの最大水位上昇量の実績で、目安として書かせていただいております。

**(質問者 8)**

TP の表記を教えてください。

**(河川課長)**

東京湾の海面の水位となりまして、基準となる水位のことです。

**(質問者 9)**

応急的な措置は説明で分かった。避難する上で、台風の時、近隣の住民は何度も平瀬川の水位を見に行っていた。ベニヤ板を貼ってしまったので、水位標が見えなくなってしまった。部分的にアクリル板が張ってあるが、民家の前や水位標の前などにアクリル板を移設してもらいたい。自分は町会の役員ということで、住民に避難するように呼び掛けて回ったのだが、自分で納得して避難するのと、言われたから避難するのではだいぶ違うと思う。そのためにも移設してもらいたい。あと、50 年に 1 回の雨は毎年のように起きている中で、多摩川の水位を下げるために浚渫の要望も出されている。等々力大橋の計画が東京であるということだが、橋脚とか多摩川の流れをなるべく阻害しないように、吊り橋にするなど計画してほしい。これは東京都と川崎市で 2 分の 1 ずつ費用負担する計画としてあるようだが、そういった点でも多摩川の流れを阻害しないように橋を立ててもらいたい。

**(高津 DKC 整備課長)**

1 点目は河川の維持管理の観点で、平常時・洪水時の水位、土砂の堆積状況を目視で確認できるようにアクリル板を数か所設置しております。現在、水位標のところについては、目視できるのがベストだと考えておりますので、お話を伺いながら検討してまいります。

ただ、なにぶんアクリル板はコンパネに比べて高価で、全ての張替えは厳しいので、御了

承願います。

**(河川課長)**

等々力大橋については参考とさせていただきたいと思います。

多摩川の水位を下げる件については、国は管理上必要な堆積した箇所土砂掘削をしていく方針で、平瀬川と三沢川の合流部において3,000～5,000立方メートル掘削しております。国への土砂掘削の実施要望は、引き続き行っていきたいと考えております。

**(高津DKC整備課長)**

補足ですが、多摩川合流部から平瀬川の久地1号橋の間の樹木伐採・浚渫を現在行っております。

**(司会)**

大変申し訳ございません。お時間が迫ってまいりましたので、本日はここまでとさせていただきます。

なお、今回は説明会の時間も限られていますので、「御質問・御意見記入用紙」をお配りさせていただきます。

また、記入用紙の下の方に記載がございますメールやFAXからも御質問いただけますので、こちらも御活用いただきたいと思います。

**○高津道路公園センター挨拶（閉会）**

**(高津DKC所長)**

高津区役所道路公園センター所長の田之倉でございます。

本日は、説明会に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。冒頭にもお話しさせていただきましたが、令和元年東日本台風の際の浸水被害について、我々は大変重く受け止め、被害の最小化に向け検証を行ってまいりました。

そして、現在、検証結果を踏まえた対策を進めているところでございまして、住民の皆様にご安心していただけるよう、一日も早い完了を目指して、いただいた御意見を踏まえながら、しっかりと取り組んでいかなければならないと考えております。

今後も、引き続き、対策を着実に実施していくとともに、中長期対策についても、国や県と連携して検討を進めていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。